



## 東地中海地域ニュース

### イスラエル：フィッシャー・イスラエル中央銀行総裁の訪日

(2月9日付「エルサレム・ポスト」紙)

1. 今週日本を訪問したフィッシャー・イスラエル中央銀行総裁は、日本の投資会社や企業との会談において、イスラエルへの投資及びイスラエル・日本両国間の経済関係強化を求めた。
2. 会談は、日本の経済産業省貿易担当筋による投資フォーラムの一環として行われ、主催したハレビ・ラヒア産業貿易労働省アジア太平洋地区課長（注：現在京イスラエル大使館経済担当公使）は、「会議には2,500億ドルの運用資産を持つ日本の投資会社12社（ゴールドマン・サックス日本、野村證券、日興コーディアル証券、BNP等）及びイスラエルに投資している日本企業が参加し、同会議で日本の投資会社及び企業のイスラエルに対する関心が引き出された」と語った。又、ボアーズ・ヒルシュ二国間協定担当課長（注：現在京イスラエル大使館次席）は、「復調期にある日本経済や日本経済の規模に比して、両国間の経済関係は低調であり、両国間の経済関係拡大の余地は大きい」と述べた。
3. 2006年のイスラエル・日本両国間の貿易総額は23億ドルで、イスラエルから日本向け輸出総額は対前年比2%増の763百万ドル（電子機器、光学機器、医療機器、化学製品、ダイヤモンドなど）、日本からイスラエルへの輸入は総額で対前年比13%増の15.3億ドル（自動車が45%増、電子機器類が30%増）となっている。
4. 尚、同総裁は今週、OECD加盟支持要請の為、日本及びドイツを訪問し、日本では財務相、日本銀行総裁、外務省、経済産業省の要人と、ドイツでは大統領、財務相、内務相と会談した。